

**取組実績の概要（2 ページ以内）**

本事業は、教育の質保証の要である PDCA サイクルの Check フェーズでの学修成果の達成度の定量的評価手法の開発と、学生の深い学びと汎用的能力育成に不可欠なアクティブ・ラーニング科目の飛躍的増大、教員の教育力向上を目指し、本学未来科学部における下記の 1. ～ 4. に注力した活動を基とし、事業終了後、その成果を全学に波及させるものである。

**1. 教育枠組み(1)：教育の質保証を実現できる枠組の構築****(計画)**

PDCA サイクルによる教育の質保証を実現するため、学修成果の達成度評価、中でも汎用的能力の育成度合いの定量的評価用の適切なルーブリックを開発・普及する。

**(取り組み成果)**

ディプロマ・ポリシーに記載されている学修成果の達成度を評価し、これに基づいて学生の学びの振り返りと教育プログラムの改善を行うための PDCA サイクルを構築することができた。ここでは、汎用的能力の達成度を評価できる、下記の「学修成果達成度評価システム」を構築・活用している。

また、このシステムによる学修成果達成度評価結果を活用して、学生の学修成果の社会への提示のためのショーケース型ポートフォリオを作成するシステムを作成した。

**(1) 各科目の教育目標の達成度評価体制**

各科目のシラバスに記述されたその科目で育成すべき知識・能力は、シラバス等に記された方法（下記(2)(3)）でその達成度を評価する。

**(2) 汎用的能力の達成度評価用ルーブリックを用いた達成度評価体制**

ディプロマ・ポリシーに示された学修成果の中の汎用的能力の達成度評価のため、米国の VALUE ルーブリックを参照して作成した、「汎用ルーブリック」をもとに、各学科のディプロマ・ポリシーに整合した「学科ルーブリック」、汎用的能力育成科目用の「科目ルーブリック」の作成手順を文書化し、学科・科目ルーブリックを作成した。学科ルーブリックは e-ポートフォリオに導入し、学生のディプロマ・ポリシーの達成度評価用で使用される。

**(3) 知識とその応用能力評価用の学修到達度調査**

ディプロマ・ポリシーの中の知識と応用能力に関する学修成果の達成度は、該当科目の成績の他、各学科の必須の知識・能力の達成度をアチーブメントテストとして毎年調査実施する体制を構築した。

**(事業の効果)**

本事業では、学生の学修成果の達成度評価枠組みを構築することで、全学的に導入された質保証の要であるアセスメント・ポリシーの趣旨を先導的に実現することができた。

**2. 教育枠組み(2)：有効なアクティブ・ラーニング (AL) のための枠組の開発・普及****3. 教育内容：有効なアクティブ・ラーニング手法の開発・普及****(計画)**

授業時間内の効果的な AL と、それに必須の授業時間外での自習のための反転授業の手法を開発し、これらの導入・普及を図る。

**(取り組み成果)**

反転授業と AL 科目の定義を定めるとともに、AP マニュアル 2 (AL と反転授業の実施法)、AP マニュアル 4 (PBL ハンドブック 追補資料) の作成と全教員への配布により、全専門科目のアクティブ・ラーニング化、反転化を実現した。

本事業では、LMS としての WebClass を整備し、これと総合メディアセンターが全学的に整備した Zoom、box を合わせて反転授業のインフラとしての活用のノウハウを蓄積し、また FD で教員にその効果を周知してきたが、今回のコロナウィルス感染症対応で大学全体で導入したオンライン授業に適合し、全学的に反転授業と AL が普及することとなった。

**(事業の効果)**

反転授業と AL を全専門科目に導入することで、学生の授業外学修時間を大幅に増加させることができ、また学生の成績が向上していることが AP 推進委員会で報告された。

**4. 教員教育力：教員教育力向上に資する枠組の構築****(計画)**

教員教育力向上のための教員評価制度を全学的に構築・運用するとともに、効果的なFDを実施する。

**(取り組み成果)**

教員教育力向上のために、「第三者評価がある自己点検評価制度（教員評価制度）」を構築し、全教員に実施するとともに、本事業推進に必要な教育枠組と教育法に関するFDを広汎に実施した。

**(事業の効果)**

全教員がその実績等の目標管理を行うと共に、その結果に対して第三者と管理者が確認を行うことで、教員の教育内容の深化とその改善の意識を高めることができるようになった。

またFDは、学生のための教育改善・改革にむけた教員の意識を高めることで、学生のための教育改善に寄与した。

**5. 補助期間終了後の展開**

本補助事業終了後の事業成果の全学的な展開は、教育を担当分野とする副学長が担当する「教育改善推進室運営委員会」において、全学的な観点からの教育改善に向けた議論の上、下記の項目について検討し実施することとした。またその全学展開事業の具体的な推進とその推進状況の自己点検・評価は、この委員会の下で実務を担当する2020年度AP推進委員会が担うこととした。この委員会は、本事業をこれまで推進してきたコアメンバーで構成されている。

- (1) 反転授業とALの普及を目指した、反転授業とALの定義の明確化と、実施内容のシラバスへの明記
- (2) 学修成果の達成度評価と可視化の方針を示すアセスメント・ポリシーの具体化とその運用のため、学修成果を測定・可視化するシステムを構築し、その定着を図る
- (3) ショーケース型ポートフォリオの導入と、それを用いた社会への本補助事業成果の発信
- (4) データに基づく検証を通じた教育改善の枠組み構築のための、学修行動調査を含む各種調査の見直し
- (5) 「第三者評価がある自己点検評価制度（教員評価制度）」の実施

**【必須指標の達成度】**

	平成 26 年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
AL*を導入した授業科目の割合	44%	100%	100%
AL*科目のうち、必修科目の割合	49%	50%	40.4%**
AL*科目を受講する学生の割合	100%	100%	100%
学生1人当たりAL*科目受講数	8.3科目	20科目	20.1科目
AL*を行う専任教員数	100%	100%	100%
学生1人当たりのAL*科目に関する授業外学修時間	3.7h	12h	25.6h
退学率（退学者数（含除籍者数）／在籍者数）	4.2%	3.7%	2.5%
プレースメントテストの実施率	100%	100%	100%
授業満足度アンケートを実施している学生の割合	20%	85%	100%
授業満足度アンケートにおける授業満足率	73%	75%	84.5%
学修行動調査の実施率	0%	85%	100%
学修到達度調査の実施率	46%	100%	30%***
学生の授業外学修時間	7.1h	12h	25.6h
学生の主な就職先への調査	実施	実施	実施

\* AL：アクティブ・ラーニング

\*\* カリキュラム改訂で必修科目の割合が減ったため、目標の50%は満たされなかったが、全科目がAL化されているので、教育効果としては問題ないと考えます。

\*\*\* 新型コロナウイルス対策のため調査の一斉入力之机がなくなり、目標が達成できなくなったが、R2年度中に再度一斉入力之机を設け、目標達成を目指す。